



藤村祐子先生
東京学芸大学
先端教育人材育成推進機構
准教授

東京学芸大学高校探究プロジェクト・プロジェクトマネージャー。大学院修了後、滋賀県の公立高校に理科(化学)教諭として勤務。滋賀県総合教育センターの研修指導主事時代に、コーチング、ファシリテーションに出会う。2021年4月より現職。ワークショップ型教員研修プログラムの開発や各教科における探究的な学びの実現に向けた授業づくり・ワークショップ等の企画・運営を実践。

調査概要

- 調査対象：全国の高校生
- 調査時期：2025年10月
- 調査方法：インターネット調査
- 調査対象エリア：全国
- 調査対象・サンプル：職業「高校生」と回答した15～19歳985名

生徒アンケート

高校生は コミュニケーションを どう捉えているのか

社会でのコミュニケーションが多様化・複雑化している一方で、
高校生たちはコミュニケーションをどのように捉えているのでしょうか。

高校生を対象に実施したアンケート結果を基に、
生徒たちが考えるコミュニケーションについて、高校・大学の現場で若者と接しながら
教員研修プログラムを実践している藤村祐子先生に読み解いていただきました。

取材・文／長島佳子

コミュニケーション能力を 評価の対象と捉えている

——「コミュニケーション能力」の自己評価について、47%の高校生が「非常に苦手／苦手な方」と苦手意識をもっています(Q1)。これについてどうお考えになりますか？

まず、高校生が、コミュニケーションをどのようなものだと考え、どんな点を大切にして「得意／苦手」と回答しているのか気になりました。

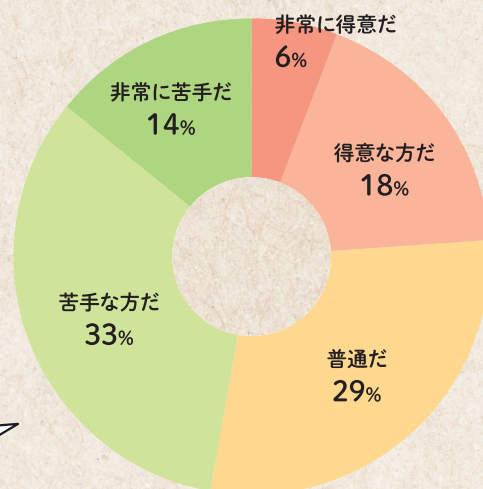
Q2の「コミュニケーション能力に対するイメージ」の回答内容を見ると、「自分の意見をわかりやすく話す」「相手の話を聞く」「初対面の人ともすぐに打ち解ける」などが高く、自分が周囲からどう見られるかに関わる行動を「コミュニケーション能力」として捉える傾向があるように感じます。

「生徒の声」(13ページ)でも「社会の中で自分の価値を決める要素の一つ」と答えている生徒もいますね。ほかの声からも周囲からの評価が自己肯定感につながるという意識が見られ、そうした自分の人間関係づくりを「コミュニケーション」の目的と捉えている面も感じられます。

——「コミュニケーションの本来の目的を先生はどうお考えですか？

コミュニケーションのゴールは、多様な価値観や新しい考えに出会い、それらを互いにもち寄って組み合わせながら自分の考えを更新し、より良い社会や

Q1 >> 自分の コミュニケーション能力の評価



「非常に得意／得意」が24%、「非常に苦手／苦手」が47%とコミュニケーション能力に苦手意識が見られる。

藤村先生Check! /

コミュニケーションを
どのようなものだと考え、
どんな点を大切にして
「得意／苦手」と
回答しているか気になります



段であり、コミュニケーション本来の目的とは違うのではないだろうか。

自分の意見と、相手や対象に 興味をもつことから始まる

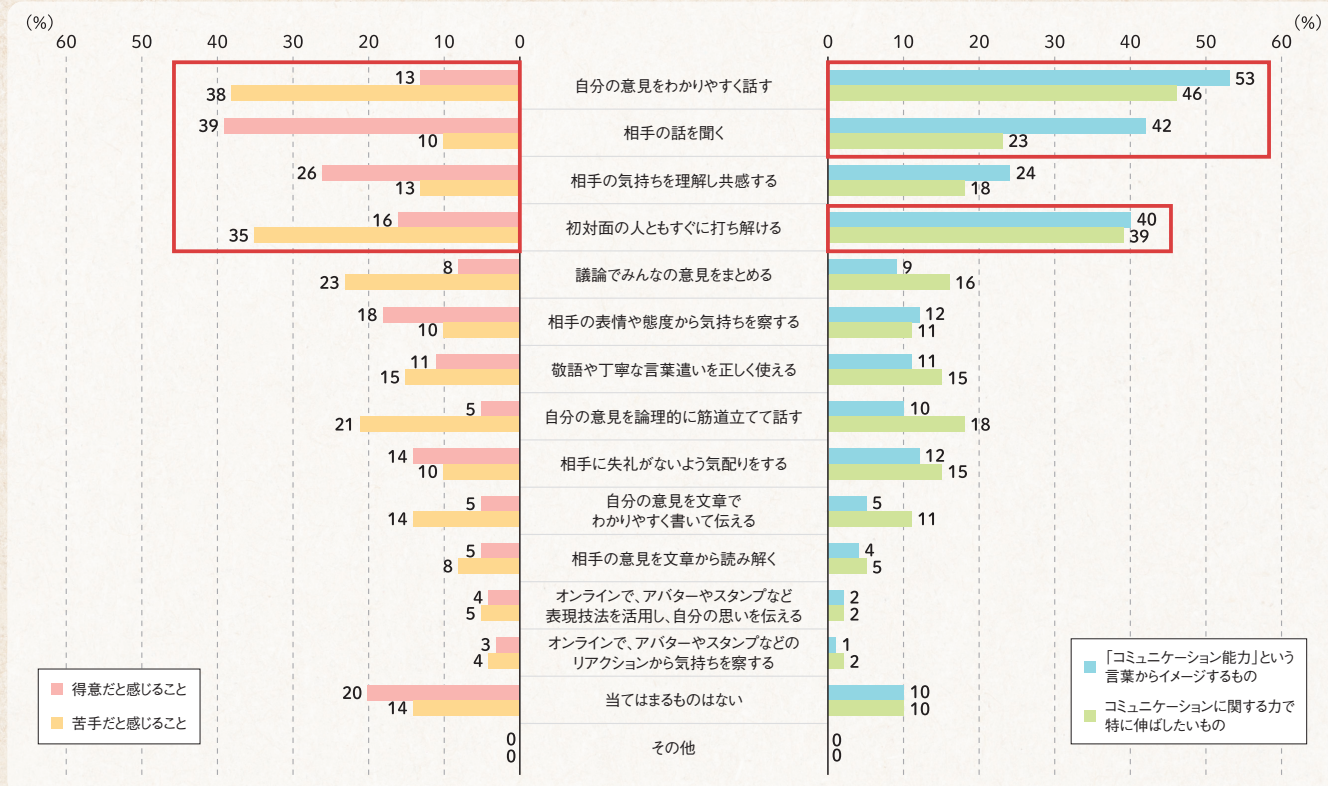
——多様な価値観や新しい考えとの出会いによって自分の考えを更新するコミュニケーションは、学校教育ではどのように行えばよいでしょうか？

コミュニケーションするには、大前提として自分の考えをもつことが必要で

Q2 >> コミュニケーション能力に対するイメージは？ 伸ばしたいものと、得意・苦手と感ずることは？

(複数回答)

わかりやすく伝えたり初対面で打ち解けるなど、
自分の評価につながることを
コミュニケーション能力と捉えているようですね



高校生がイメージする「コミュニケーション能力」は「自分の意見をわかりやすく話す」「相手の話を聞く」「初対面の人ともすぐに打ち解ける」が高く、伸ばしたいものとはほぼ同様の傾向を示している。一方で、得意なことは「相手の話を聞く」「相手の気持ちを理解し共感する」と相手を観察することが高く、「自分の意見をわかりやすく話す」「初対面の人ともすぐに打ち解ける」など自分発信のコミュニケーションは苦手と捉えている。

「想い・考え」が湧き出れば誰かに伝えたいもの。自分に想いや考えがなければ話すことも、相手の話に興味をもつこともできないと思います。だから授業ではグループワークをする前に、個人で思考する時間を設定しないと話し合いはうまくいきません。

ファシリテーションでは「話し合い」を【会話】「対話」「議論」の3つのモードに分けています。「会話」は関係性構築のためのおしゃべりや共感を求めるもの、「対話」は結論をまとめようとせず判断を保留し多様な視点を認識するもの、「議論」はディベートのように意見をぶついたり結論をまとめるものです。生徒がイメージするコミュニケーションは「会話」が多いようです。一方で学校教育では学習指導要領で「主体的・対話的で深い学び」を実現させましょうと言っており、「対話」が重要視されているのです。

——対話をするときに気をつけるべき点はどんなことでしょうか？

対話的な学びには、個人的に、コーチングスキルの【傾聴】「承認」「質問」が必要だと思っています。人の話を聞いて（傾聴）、相手を受け止めていくこと（承認）は得意と思っている生徒も多いようです（Q2）。自分の意見と違っても一旦受け入れるという「傾聴」「承認」から、安心・安全な場が醸成されていきます。

私は、これからのコミュニケーションで大事なことは「質問し合う、問いかけ合う」ことではないかと考えています。

質問するためには相手や対象に興味関心をもつ必要があります。例えば化学の授業において、「化学が嫌いだから意見がもてない」で終わるのではなく、「なぜ化学が嫌いなのか」という問いかけから始めればよいと思います。質問を考えて投げかけることで対話が深まっています。自分の考えをもつときも同じで、個人思考のなかで自分に問いかけ、対話することで考えが生まれます。コミュニケーションは自分との対話から始まっているのです。

自分の考えをもつうえで人と対話すると、相手と自分との違いを感じることになります。それが多様な価値観との出会いです。アンケートで「自分の意見と異なる人と議論する」を苦手と答えた生徒が多かったですが（Q3）、そこで必要なのが対話。議論する前に、いろいろな考えがあることを知り、なぜそう考えたのかという相手の背景を考えること、そして、その考えを受けて自分の考えが変容していく対話のプロセスを実感することも、コミュニケーションの意義ではないでしょうか。

——社会でのコミュニケーションが多様化・複雑化してきて、コミュニケーションという言葉の捉え方がわかりにくくなっているように感じますね。

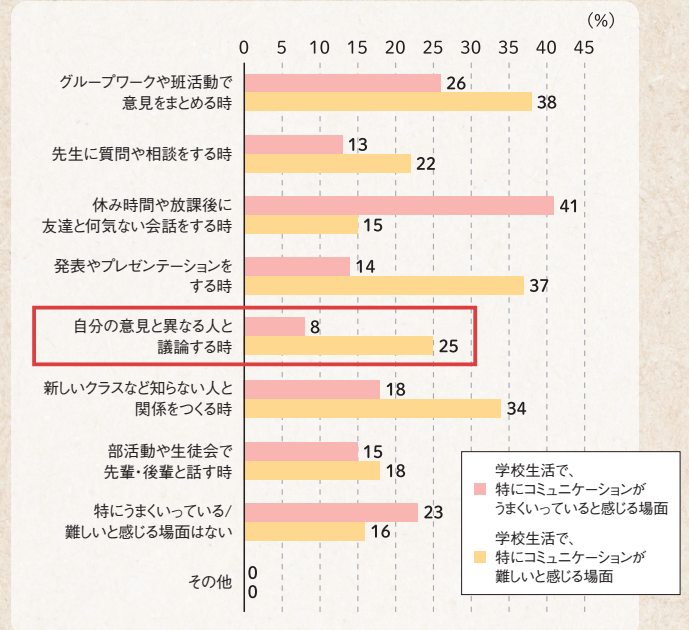
コミュニケーションには言語的なもの

お互いの想いを伝え合う場をつくることで役割を認識

自分の考えと異なる人との
出会いは大切で、なぜそう考えたのか
背景まで対話してほしいです

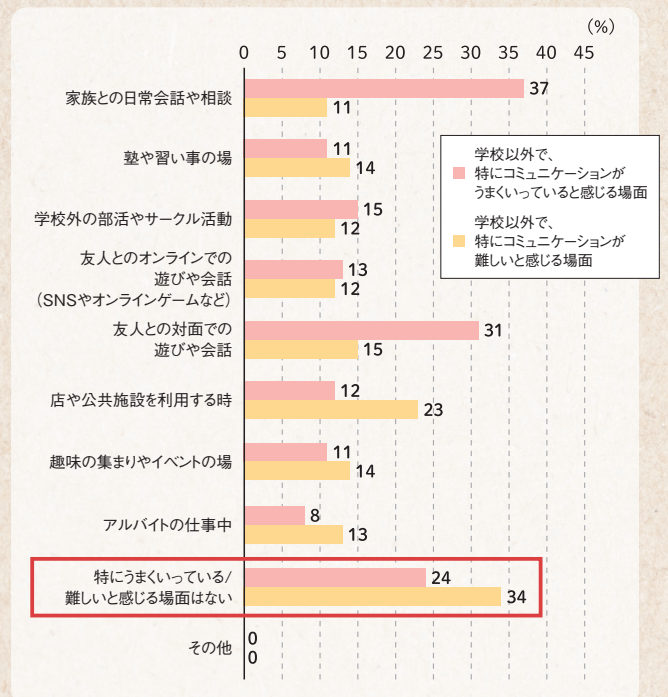


Q3 >> 学校生活での コミュニケーションは？（複数回答）



学校では、授業以外で友達と会話するときはうまくいっていると感じているが、グループワーク、発表、議論の場面や新しい人間関係をつくるときは難しいと感じている。

Q4 >> 学校以外での コミュニケーションは？（複数回答）



学校以外で家族や友人と会話するときはうまくいっていると感じており、「難しいと感じる場面はない」が最多。

と、表情や声のトーンなど非言語のコミュニケーションがあります。非言語的コミュニケーションは、対話的な学びでも大切になります。話さないから「コミュニケーションができていないわけでは
ありません。Q5の項目にもある「相手の表情や態度から気持ちを察する」とも非言語的コミュニケーションです。

——でも生徒たちは、話すことが苦手だとコミュニケーションそのものが苦手だと捉えてしまうのですね。
人にはそれぞれ役割や得手・不得手があると思います。レゴブロックで例えられたりしますが、それぞれの色（個性）をもった個が集まり、形をつくったり、架け橋となったり、個々に役割を発揮して成り立ち、広がっていくのが社会です。コミュニケーションも同じで、喋るのが苦手でも、書いた文章で伝えたり、聞いて共感する力が高かったり、そのうえで行動できる人など、非言語コミュニケーションも含めてお互いの想いや考えを伝え合い、理解・共有するプロセスを踏めればよいのです。コミュニケーシ

ョンが「苦手な方／非常に苦手」と思っている「相手の話を聞く」「相手の気持ちを理解し共感する」ことは得意と答えている生徒が多数いました（Q5）。それも大切な役割であり、力です。話すことが苦手だからコミュニケーション自体を苦手と感じたり、みんながみんな、コミュニケーション能力を向上させなければいけないと思ったりする必要はないのではないのでしょうか。

——生徒一人ひとりが自分の役割を見つけるために、学校教育でできることはどんなことでしょうか？
まず、学校やクラスで、なぜコミュニケーションが大切なのか、どういうコミュニケーションを目指すのか、などについて対話を通して考え、目的や意義を共有することが大事なのではないでしょうか。例えば授業での話し合いでペアやグループをつくり、組み合わせを変えていくのは、さまざまな新しい価値観との出会いを期待しているからです。背景や得意分野が異なる多様な仲間との対話が化学反応を起こします。他

学校以外ではコミュニケーションを難しく感じていないのは、
評価される場面ではないと
思っているからかもしれませんね



生徒の声

コミュニケーションについて思うこと

- コミュニケーション能力が良くないと学校のわからないことすら聞けないから改善したいと思っている。(2年生/自己評価：非常に苦手)
- 相手の気持ちを察しているつもりになっていても、実際とは異なる場合もあるし、正解もないのでとても難しく感じる。また、伝えるべきことと、伝えない方がよいことの判断も難しいと思っている。(2年生/自己評価：苦手な方)
- コミュニケーションはやっぱり社会の中で自分の価値を決める要素の一つだと思う。(2年生/自己評価：普通)
- 人それぞれコミュニケーションの定義も、どんなコミュニケーションがその人にとって良いものなのかも違うのが難しいところだと思う。(2年生/自己評価：普通)
- つかれてだるいもの。あまり話したくないのに話さないといけない圧迫感。(1年生/自己評価：得意な方)
- 周囲で不適切な発言や言葉遣いが目立ち気になる。相手を思いやるという意味でのコミュニケーション能力を世の高校生はもっと身につけるべきだと思う。(1年生/自己評価：得意な方)

者との違いを認識するなかで自分の役割にも気づいていきます。

高校では教科・科目と総合的な探究の時間が往還関係にあるのが理想的です。社会課題においても、ある専門分野だけではなく向き合えませんか。探究活動でも、文理融合や教科横断の視点で取り組むことが重要だと思っています。総合的な探究の時間が、さまざまな価値観を認識しながら、各教科の視点を活かして対話する「場」になるのではないのでしょうか。

我々が開催したイベントに参加してくれた高校生の感想に、「(グループでの探究は)一人で探究をするより色々な価値観をぶつけることができるので広い視野で探究をすることができ、新しい発見もあり、新しい考え方を取り

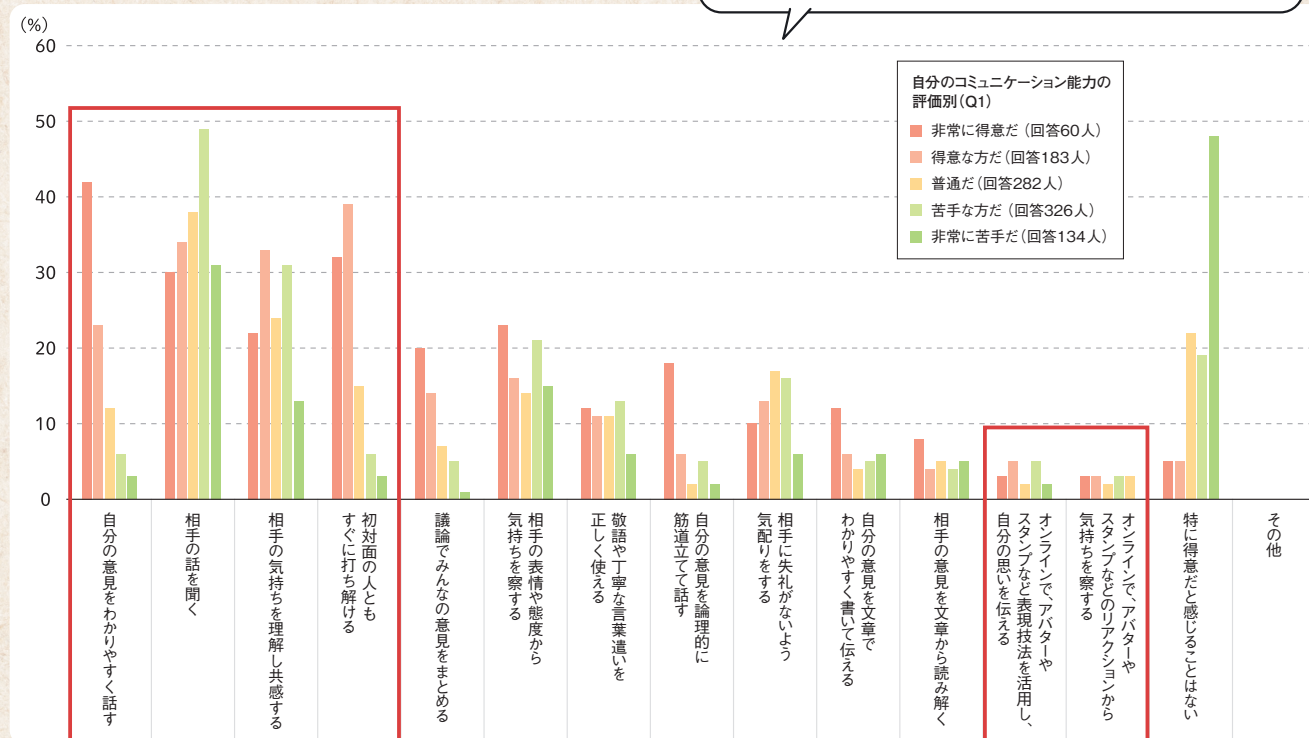
込むことができることが良いことだと考える」という声がありました。こうした「場」を経験し、学校における探究や対話の意義が実感できた生徒は育っています。

生徒も、これからの社会を共につくっていく仲間です。高校生の多くがコミュニケーションを「自分がどう見られるか」「関係づくり」に結びつけて捉えています。本質は、多様な価値観や考えをもち寄り、組み合わせながら新しい視点を生み出していくところにあります。だからこそ、お互いの違いを尊重し、想いを汲み取りながら対話を重ねる経験を、学校という「場」で積み重ねられることが大切です。先生方も、生徒と共に対話のプロセスを楽しんでいただきたいと思います。

藤村先生Check! /

Q5 >> コミュニケーションにおいて得意だと感じることは? (複数回答)

「相手の話を聞く」のが得意ならそれも大切な役割です! オンラインの回答が低いのは、SNSのやりとりはコミュニケーションと捉えていないのかもしれないですね



コミュニケーションが得意だと自己評価する生徒は「自分の意見をわかりやすく話す」や「初対面の人ともすぐに打ち解ける」など能動的な内容を得意だと回答しており、苦手だと自己評価する生徒はそれらに対する得意意識が極めて低い。しかし、「相手の話を聞く」や「相手の気持ちを理解し共感する」はコミュニケーションが苦手な生徒でも得意だと回答している。